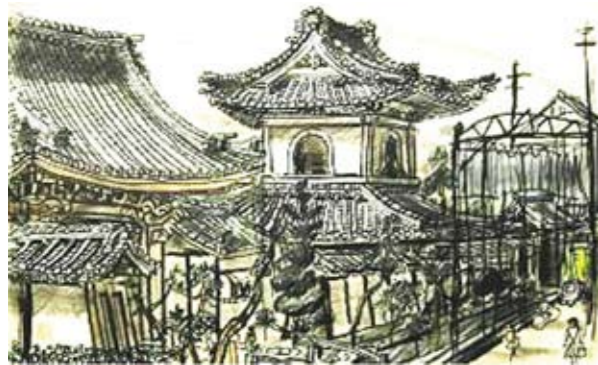


高田寺内町

たかだじないちょう

賑わい
つながり
いきづくまち

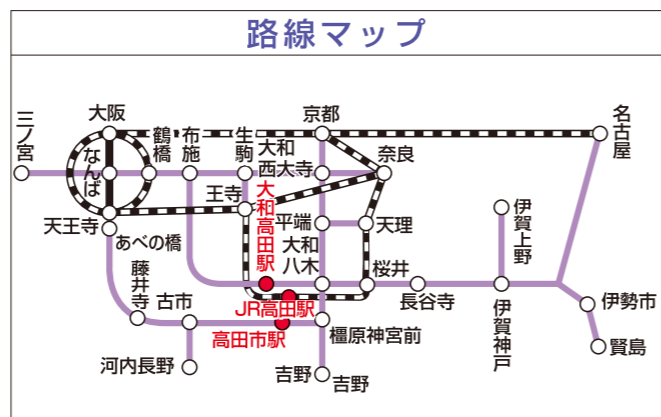


高田御坊専立寺 (野澤寛画)

なつかしの高田



昭和28年の本町通り
「ネオンアーチ落成記念祝賀大売出し」の幕がかかっている。



平成20年度は、この3地区で作成しました。



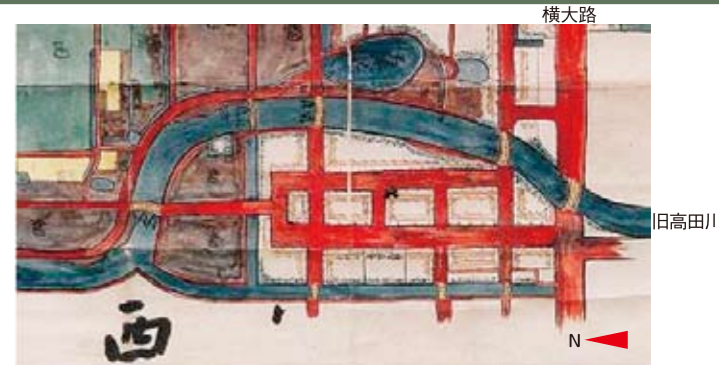
協働によるマップづくり

- このマップは、「大和高田市本町・市町地区まちづくり協議会」と「ならまちづくりコンシェルジュ(奈良県)」が協働で作成しました。
- 平成21年(2009年)3月発行
- 問い合わせ先:
大和高田市本町・市町地区まちづくり協議会 (TEL 0745-52-5180)
奈良県地域デザイン推進課 (TEL 0742-27-5433)

中世の高田は、高田城(現片塩小学校あたり)を中心に本郷が発展していましたが、慶長五(1600)年、本願寺准如が旧高田川左岸に高田御坊専立寺を建立し、寺内町が形成されました。

また高田は、横大路と下街道が交差する地点でもあり、さらには大和川の水運も利用されることにより、多くの商工業者が集住し、商業地として発展していききました。特に、大和綿は主要な商品の一つで木綿問屋が多くありました。また、昭和30年代には、県下有数の商店街として、市外、あるいは県外からも多くの人が集まり活気がありました。

商業のまち大和高田



旧高田川と寺内町(堀江家文書高田村綿花作付図 江戸時代より)

旧高田川に5つの橋(左から大橋・好仁橋・天神橋・古川橋・籬倉橋)が架かっている様子がよくわかる。一番右の縦の道が横大路にあたる。

横大路、初瀬・伊勢街道

横大路は、当麻の長尾神社から桜井の仁王堂の寺川にかかる小西橋にいたる約127kmを東西に走る道で、古代からの主要街道です。西は竹之内峠を越えて、浪速津に至り、東は長谷寺さらには伊勢神宮まで至る道が続き、初瀬街道や伊勢街道といった名称でも親しまれています。奈良時代には、河内国からこの道を通り、大和に入り、そして奈良の都に向かったと考えられ、横大路はシルクロードの終着点である奈良に向かう、奈良のシルクロードであったといえます。

横大路は大和高田を横断する道で、高田には戦国期から近世にかけて、横大路という地名が見られ、現在も「よこうち」という地名が残っています。また江戸時代、約60年ごとに大流行した「おかげまいり」では、伊勢に参詣する人々が多く通り、施行などが行われ、太神宮燈籠も多く作られました。



和田桃影作・お蔭絵馬(複製)



旭町太神宮高燈籠

高田川の歴史 高田川つけ替え工事

現在の高田の主要な道路である中央道路(主要地方道大和高田斑鳩線)は、もともとは高田川でした。道が曲がりくねっていることから川であった面影をうかがうことができます。また中央道路沿いには、天神橋などの地名も残り、高田川にかかっていた橋の顕彰碑が現在も五ヶ所にあります。この付け替え工事により、川の氾濫による水害が少なくなり、高田のまちの発展に繋がりました。



大正時代の高田川の流れ



中川吉造
(なかがわきちぞう)

中川吉造は大和高田市市町出身の内務技監で、利根川の大改修工事など日本の河川土木事業の発展に大いに力を尽くした人物です。また、私たちの住む大和高田では、1932(昭和7)年から11年間を費やした高田川付け替え工事や上水道工事などにも貢献をしています。



「天神橋」と天神橋商店街



「古川橋」付近

江戸時代の町家など



①片岡邸

付書院の蹴込板裏面に「元治元年」(1864年)の文字がある。建造年代は、それ以前と考えられる。市町通りには江戸期の町家が特に多く残っている。



②村島家と梅田雲濱

雲濱は福井県小浜出身の尊皇攘夷派の志士。その妻千代は村島家の出身で、村島家は長州藩との交易にも大いに尽力した。雲濱は村島家、万福寺、寺内町の袋町などに仮宿した。

③中川印刷所

代々、寺内表町で奥田屋の屋号で大和木綿業を商っていた。明治33年に印刷業を始め、明治40年には月刊文芸雑誌『敷島』を創刊。石川啄木が『一握の砂』に載せた三首を含む短歌を初出寄稿をしている。その他、与謝野晶子など後年大家の列に入った作家も多く寄稿した。

④當麻邸

當麻邸は文化年間(約200年前)に建てられたと言われている。改造された箇所が少なく、全体に当初の形態が残っていると考えられている。

⑤丸ポストと太神宮

太神宮と丸ポストが並ぶ面白いスポット。太神宮は、おかげ参りの流行で祀られるようになった。当寺内町にも多く残り、各町でお祭りをしている。また、あまり見かけなくなった丸ポストは、本町通りと市町通りにひとつずつ残っている。



秋祭り

高田天神社の秋祭りには、本町、市町からそれぞれ一基ずつだんじりが出る。本町のだんじりは明治初期、大阪住吉の大佐が製作。大佐では唯一の五枚板。市町のだんじりも、明治初期の製作で、昭和初期に購入したもの。現在は高田だんじりと称している。



0m 50m 100m

地図の上の1cmは23mです。



⑬高田川と桜、二上山眺望(大中公園から)

高田川は桜の名所で、春には毎年桜まつりが開催される。西を望むと二上山から葛城山・金剛山へのきれいな山並みを眺めることもでき、高田市民の憩いの場となっている。また、大中公園には、高田にゆかりのある静御前の碑も建っている。



⑨専立寺

専立寺の太鼓楼は寺内町のシンボルの存在。江戸時代の本堂は天保9年の火災で焼失したが、太鼓楼は大門とともに当時の大きさを現在に伝えている。



⑩野口雨情歌碑

大正から昭和にかけて活躍した詩人。代表作に「七つの子」「赤い靴」など。高田を何度も訪れた雨情は「高田小唄」を書き、昭和12年にはレコード化もされている。



⑪長谷本寺

養老年間(8世紀初頭)創建。本尊十一面観音像(県指定文化財)は長谷寺の本尊と同一木で刻まれたといわれる。



⑫辻甚

創業400年を越える老舗料亭。現在は、現代風にアレンジされ、ウェディングとフレンチレストランの店に。チャペルも兼ね備え、庭園の見ごたえがある。

まちづくりマップ

高田寺内町

～江戸の町家から近代建築まで～

近代建築



⑥森川商店本社ビル
大正末期の洋館風の建築物。鉄筋二階建て。昭和50年ごろまで南都銀行だった。



⑦モリモトデンキ
奈良県の代表的建築家である岩崎平太郎が設計した昭和初期の洋風建築。近畿相互銀行であった。現在でも中には螺旋階段などが残っている。



⑧宮城医院

大正時代を彷彿させる建築様式。宮城医院の書体も右から左へと書かれている。ノスタルジックな建物。



至大和高田市役所

高田小学校

至高田市駅→

↓⑬高田川、大中公園へ

----- 寺内町の範囲(推定)